

## 第九節 明治四十二年

明治四十二年度東京美術學校年報

### 甲 款

#### 概況

明治四十二年六月廿四日前年ヨリ新築ニ着手中ノ本校圖案科、金工鑄造科漆工科ノ一棟並ニ工藝化學教室一棟落成シ本省ヨリ此日ヲ以テ引継ガレタルヲ以テ同年九月ノ學年始メヨリ各科共ニ移轉シ授業ヲ開始セリ

同年十月四日例ニ依リ本校設置紀念式ヲ舉行ス

同年十二月十一日及十七日ノ兩日日英博覽會へ本校ヨリ出品スベキ生徒成績品ヲ本省へ送致セリ

明治四十三年一月八日授業始メニ付例ニ依リテ 勅語捧讀式ヲ行フ

同年一月三十一日本校長正木直彦英國ニ出張スベキニ付教授高村

光雲ニ校長代理ヲ命セラレ

同年三月廿九日午前十時ヨリ第十九回卒業証書授與式ヲ行ヒ卒業

成績ヲ陳列シテ來賓ノ觀覽ニ供シ同日午後並ニ翌三十日ハ本校関

係者ニ縦覽セシム

本校日本画科西洋画科彫刻科教室ノ改築工事ハ其計畫決定シ本年

度末ヨリ着手ヲ見ルニ至レリ

#### 規程

明治四十三年三月九日本校規則ノ一部ヲ改正ス 之レ主トシテ取扱上ノ便宜ヲ圖ルニ依レリ  
同年同月十日文部省令第二号ヲ以テ本校圖画師範科卒業生服務規則ヲ改正セラル

#### 設備

##### 一、圖画師範科設備費

圖画師範科ハ明治四十年度ニ於テ初メテ設ケラレタルモ從來此科ニ於ケル教授用及共用ノ器具器械等ノ設備費トシテ少額ノ費用ヲ給セラレタルノミナルヲ以テ到底未ダ之ヲ完備スルニ至ラズ 左リトテ餘裕ナキ本校ノ經費ニテハ如何トモスルコト能ハズ甚ダ遺憾ノ至リナルノミナラズ此科ノ教授上ヲ完全ニシ生徒ヲ教養スルハ教育上實ニ急務ニ屬セリ 故ニ其費用ヲ支出セラレンコト切望スル所ナリ

##### 二、金工科漆工科設備費

金工、漆工兩科ハ本邦在來ノ坐業式ヲ以テ教授シタルモ教授上不便ナルノミナラズ敏活ヲ欠キ衛生ニ適セザルヲ以テ本年度九月新築校舍ノ落成ヲ機トシ腰掛ノ制ニ改メタルガ其際器械器具改良ノ費用トシテハ少額ノ費用ヲ給セラレタルノミニテ未ダ充分ノ設備ヲナスヲ得ズ 依リテ本費用ヲ支出セラレシコト目下急要ノ事項ナリトス

##### 三、講堂設備費

本校改築ト共ニ講堂ヲ設ケラル、ノ計畫アルニ至リタルハ本校多年ノ宿望ヲ實現スルコトヲ得テ喜ブベキコトナレドモ内部ノ設備ナクンバ落成ノ後其用ヲナサマルヲ以テ嚮ニ設備費

ヲ要求シタルニ圖書閱覽室ノ設備費ト併セテ少額ヲ交付セラレタルノミニテ之レニテハ到底施設ノ完全ヲ期スルヲ得ザルヲ以テ此際本費用ヲ支出セラレンコト亦緊要ノコトナリトス

#### 四、圖書標本及閱覽室設備費

本校文庫ハ明治三十九年五月中ヨリ舊帝國圖書館ノ書庫並ニ閱覽室ヲ借入レ其後本校ニ管理換ヘトナリタルヨリ本校宿志ノ一部ヲ果スコトヲ得テ爾後夜間モ公開シ本校職員生徒ハ勿論校外篤志者ノタメニ廣ク修學ノ便ヲ與ヘ參考ニ資スルコト、ナシタルモ圖書標本ハ高價ノモノ多クシテ未ダ殆ク蒐集スルヲ得ス又陳列箱陳列臺及閱覽室用机ノ如キハ教室在來ノモノヲ流用シテ一時ノ間ニ合セラシタルニ過キズシテ常置陳列所用ノ設備闕如セルヲ以テ嚮ニ設備費ヲ要求シタルニ講堂設備費ト共ニ少額ノ交付アリタルノミニテ廣ク圖書標本ヲ利用シ以テ參考ニ資シ修學ノ便ヲ圖ルノ目的ヲ達スル上ニ於テ遺憾尠カラズ 故ニ猶之ガ費用支出セラレンコト必要ノコト

#### 職員

本校職員ノ俸給及諸給ハ目下ノ費額ニテハ常ニ不足ヲ告グルノミナラズ本年三月末官吏ノ増俸ニ伴ヒテ益々其甚ダシキヲ加ヘタリ之レ他ノ直轄學校ニ比シテ平均額ノ低キニモ依ルベク各科増設ノ際ニモ割合ニ増員ノ尠キニモ因ルベシ 故ニ豫算ヲ増額セラレンコトハ切ニ望ム所ニシテ洵ニ急要ノ事項ニ屬ス

本年度末ニ於ケル職員ノ數ハ教授十九人助教十九人書記五人囑託講師九人同教員六人副科囑託三人教務雇七人事務雇八人ニシテ

之ヲ前年度末ニ比スレバ教授ニ四人ヲ減シ書記囑託講師及同教員並ニ教務雇ニ各一人ヲ増シ事務雇ニ一人ヲ減シタリ 此内教授ノ減員ハ主トシテ休職ヲ命シタルニ依レリ

外國留學生ハ本年度末ニ於テ教授一人ニシテ之ヲ前年度末ニ比スレバ助教授二人ヲ減セリ

休職員ハ前年度末ニハ一人モ之ヲ見ザリシガ本年度末ニハ教授三人助教授一人計四人アリ

#### 生徒

全体ニ於ケル生徒ノ操行學力健康ニ於テハ前年度ニ比シテ著シキ差違ナキモ新入學生ハ前年ニ比シテ概シテ體格良好ナルヲ認ム 之レ入學試驗ノ際ニ於テ良好ノモノヲ撰拔スルニ依レリ

本年度新入學者ハ本科六十六人撰科二十七人圖画師範科二十五人研究科十九人ニシテ其入學者ノ學力ノ程度ハ本科生ニアリテハ官公立中學校卒業者四十一人私立中學校卒業者十二人府縣立工業學校卒業者五人府縣立工藝學校卒業者八人撰科生ニ在リテハ私立中學校三學年修了者一人高等小學校卒業者十九人同程度ニ依リテ試驗ノ上入學ヲ許シタルモノ四人又外國人ニシテ同科ヘ入學ヲ許シタルモノハ清國人一人韓國人一人米國婦人一人圖画師範科生徒ニアリテハ師範學校卒業者三人官公立中學校卒業者二十二名研究科生ハ孰レモ本校卒業生ノ入學シタルモノナリトス

新入學生ノ年齢ハ本科生ハ最高二十五年七ヶ月最低十八年三ヶ月平均二十一年五ヶ月撰科生ハ最高二十五年十ヶ月最低十七年六ヶ月平均二十年十ヶ月圖画師範科生ハ最高二十五年最低十八年七ヶ月平均二十一年二ヶ月研究科生ハ最高二十九年最低二十四年一ヶ月

月平均二十五年十一月(孰レモ外國人ヲ除ク)ナリトス

生徒ノ入退學ハ本年度入學者ハ本科六十六人撰科二十七人圖画師範科二十五人研究科十九人ニシテ退學者ハ病氣退學六人家事係累二十四人除名七人死亡三人豫備科在學資格消滅八人轉科ハ二人ナリ 今之ヲ前年度ニ比スレバ入學者ニ在リテハ本科二十六人ヲ減シ撰科ニ七人ヲ圖画師範科ニ五人ヲ研究科ニ一人ヲ増シ復校ニ一人ヲ減シ(前年度一人アリ)退學者ニアリテハ病氣ニ四人ヲ家事係累ニ十八人ヲ除名ニ四人ヲ減シ死亡三人ヲ豫備科在學資格消滅三人ヲ増シ逐學ハ前年度ト同シク一人モアルナク轉科ニ於テハ四人ヲ減セリ

生徒ノ員數ハ本年度末ニ於テ之ヲ前年度末ニ比スレバ日本画科ニ九人ヲ西洋画科ニ三人ヲ漆工科ニ二人ヲ減シ彫刻科ニ三人ヲ鑄造科ニ一人ヲ撰科ニ四人ヲ研究科ニ四人ヲ圖画師範科ニ三人ヲ増シ差引一人ノ増加ヲ見ルノミニシテ圖案金工ノ両科ハ前年度末ト差異ナシ 而シテ又本校ニ於ケル外國人ヲ舉クレバ撰科生中ニ清國人五人韓國人一人米國婦人一人研究科中ニ米國婦人一人アリ 本年度卒業生ハ本科六十人撰科十九人(内暹羅國人二人アリ)圖画師範科十八人計九十七人ニシテ前年度ニ比スレバ五十一人ヲ増セリ 之レ一ハ初メテ圖画師範科卒業生ノ加ハリタルニモ由レリ 生徒中學術品行殊ニ優等ナルモノヲ撰ビ明治四十二年九月ヨリ一學年間授業料ヲ免除シ特待生ヲ命シタルモノ計十八人アリテ前年度ニ比スレバ一人ヲ減セリ 生徒中一學年間學業ニ精勵シタルモノヲ撰ビ之ヲ表彰スルタメニ精勤賞狀ヲ授與セシモノ計二十五人アリテ前年度ニ比スレバ八人

ヲ増セリ

實業學校教員養成規程ニ依リテ毎月學資トシテ一ヶ月金五円ヅ、ヲ補給シタルモノハ二人ニシテ前年度ニ同ジ

圖画師範科生徒ニハ學資トシテ毎月金六円ヅ、ヲ支給ス 其本年度ニ於テ學資ヲ支給シタルモノハ五十人ニシテ前年度ニ比スレバ十四人ヲ増セリ 之レ同科設置以來第三回目ノ入學者増加シタルニ因レリ

明治四十三年三月末ニ於テ卒業スベキ生徒ニシテ實地修學ノタメ四十二年七月一日ヨリ三週間ヲ以テ助教授一人嘱託講師二人ヲシテ之ヲ引率セシメ京都奈良及滋賀ノ一府二縣へ出張研究セシメタルコト前年ニ同シ

本校生徒ハ皆通學ナルヲ以テ寄宿舎ニ関シテハ申報スベキコトナシ

將來施設上重要ト認ムル件

- 甲 留學生増派ノ件〔三十九、四十一年度報告と同文につき省略。〕
- 乙 研究生ニ學資給與ノ件〔四十、四十一年度報告と同文につき省略。〕
- 丙 生徒實地研究費増額ノ件〔四十一年度報告と同文につき省略。〕
- 丁 建築科特置ノ件〔三十九、四十一年度報告と同文につき省略。〕
- 戊 製版科新設ノ件〔四十一年度報告と同文につき省略。〕
- 己 陳列館新設ノ件〔四十一年度報告とほぼ同文につき省略。〕

雜件

生徒實驗ノ資ニ供スルタメ諸所ノ依頼ヲ受ケ製作ニ從事シタルモノ、中重モナルモノヲ舉グレバ左ノ如シ

依囑製作品一覧

品名	数量	受託年度	本年度内竣工未竣工ノ別	依囑者
仙臺廣瀬橋高欄	壹式	前年度	竣工	宮城縣
紀念文字	拾五字	同	同	毛利公爵
銀製花盛器	壹個	本年度	同	桂侯爵
純金製コップ附屬品一式	壹組	同	同	在韓國統監府員 鈴木穆
三ッ組金盃	壹組	同	同	日本勸業銀行
日英博覽會賣店館入口裝飾用造花及仁王立像二体	壹式	同	同	日英博覽會事務局
梵鐘	壹個	同	未竣工	隆國寺住職 細川祖良
台徳院靈屋模型	壹個	同	竣工	東京市
東京市摸型	壹個	同	同	同

『東京美術學校校友會月報』記事抜粹

東京美術學校近事〔七—六〕<sup>巻号</sup> M・四二・二・二八<sup>年月日</sup>

○教授諸氏の陞等 教授大築千里、白山福松、寺崎廣業の三氏は、一月二十六日付を以て各高等官五等に陞叙せらる。

○職員の出張 石井〔吉次郎〕助教は舊臘十二月末より本年一月へかけ、靜岡縣の依囑により同縣下久能山へ、修繕工事監督のために出張滞在せられ、櫻岡〔三四郎〕教授は一月廿七日より五日間、本校本務にて宮城縣仙臺市へ出張せられたり。

○雇員の任命 磯野富之助氏（圖案撰科卒業）は、一月三十一日付にて本校雇を命ぜられ、文庫掛申付けられたり。

○豫備科師範科志願者の出願期日 本校に於テ來四月初めより入學を許すべき、豫備科並に圖畫師範科生徒は、先頃來募集中なるが、其願書提出期日は、各三月一日より同月十三日迄にして、右募集に關する詳細の心得等は、十二月十四日の官報廣告には圖畫師範科の分を、同月十五日の官報廣告には豫備科の分を載せたり。關係ある向は參看せらるべし。

東京美術學校近事〔七—七〕 M・四二・三・二七

○白濱教授の出張 文部省視學委員なる本校教授白濱徵氏は、二月十九日より二週間、學事視察のため同省より大阪府下へ出張を命ぜられたり。

○古宇田〔実〕教授の復職 同教授は三月一日付を以て復職を命ぜられたり。

○卒業式と展覽會 本校第十八回卒業證書授與式は三月二十七日午前十時より會議室にて舉行せらるることとなり、引續て同三十日まで三日間、成績品展覽會を催すこととなれり。されば卒業式當日の招待者には式の前後に於て展覽會陳列品を觀覽に供し、同日午後